

平成 31 年度第 4 回 立川市文化振興推進委員会 会議録（要旨）

開催日時	令和 2 年 1 月 21 日（火曜日） 午後 3 時～5 時
開催場所	立川市役所 209 会議室
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 立川市第 4 次文化振興計画素案（案）の検討 3. 立川市第 4 次文化振興計画についての答申 4. その他
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・立川市第 4 次文化振興計画素案（案） ・第 4 次文化振興計画答申にあたって ・令和元年度第 3 回立川文化振興推進委員会 会議録（要旨） +まとめ写真
出席者（敬称略）	<p>[委員] 委員長 今井良朗、副委員長 吉成順、 高木誠、田ヶ谷省三、堀江憲一、宮田龍之介、矢内はな恵、綿引康司 （敬称略）</p> <p>[事務局] 産業文化スポーツ部長 矢ノ口美穂、地域文化課長 比留間幸広、生涯 学習推進センター長 五十嵐誠、地域文化振興財団事務局長 加登義 哉、地域文化課文化振興係長 柳澤彰子、地域文化課市史編さん担当主 査 小川始、地域文化振興財団文化事業係長 足立香織、地域文化課文 化振興係主任 田中準</p>
公開及び非公開	公開
傍聴者数	0 人
会議結果	<ul style="list-style-type: none"> ・会議で出た意見等を反映させたものを第 4 次文化振興計画素案とし、 議会に提出、パブリックコメントの実施、と進めていく。 ・次回の会議は、令和 2 年度 5 月頃の予定。
担当	産業文化スポーツ部地域文化課文化振興係 電話 042 - 506 - 0012

■会議内容（要旨）

1. 開会

- ・委員長の司会により開会
- ・事務局より、資料について確認があった。

2. 立川市第4次文化振興計画素案（案）の検討

・事務局より、立川市第4次文化振興計画素案（案）の第1章から第4章について説明があった。

（副委員長） 到達目標の「文化芸術で育む、だれもが楽しめるまち」で、「育む」は「まち」に係るものだと思うが、「楽しめる」が何を指しているのかがわかりづらい。

（委員長） 「文化芸術で育む」はおそらく人を指しているのだが、そこが「楽しめるまち」に上手く繋がっていないのかもしれない。

（副委員長） もし委員長の言うとおりであれば、間の「、」はいらないかもしれない。

（委員長） ここはかなり重要な、キャッチフレーズになりうる部分なので、皆さんの意見も伺いたい。また、「育む」が漢字にするかひらがなにするかで印象も変わってくるので、そこについても意見を伺いたい。

（A委員） 言葉のニュアンスとしては、第3次の「息づく」がステップアップして「育む」になったんだと思う。確かに言葉の接続はよくないと思うが、そのような理解をしていた。

（B委員） 「息づく」から「育む」になったことで、みんなでより積極的に育んでいこうというアクションが見えてくるという部分ではよいと思う。ただ、よくよく考えてみると、確かに主語がどこにあるのか、というのは分かりづらいかもしれない。

（C委員） 「育む」の部分で、ひらがなにすると印象が柔らかくなるが、漢字の方が読みやすく、入ってきやすい。

（副委員長） 「楽しめるまち」というのは文化芸術を楽しむというのではなく、みんなが楽しいという意味なのか。もし后者であるならば、今のものでも理解ができる。

（事務局） 文化芸術の計画なので文化芸術を楽しむという部分もあるが、それだけではなくいろいろな部分で楽しめるまちを目指す、ということである。

（D委員） 広く進んだ感じがしていて、その分具体的ではない部分もあるが、取り組み自体が多岐にわたるものなので、現状のもので良いと思う。また、取組方針がひらがななので、「育む」も併せたほうが良い。

（E委員） 現状のもので行くのなら「、」は無い方が良い。また、「育む」も漢字ではなくひらがなが良い。また到達目標の捉え方だが、個人的には、「育む」のは

「まち」であると捉えている。文化芸術を担う誰もが、まち全体を楽しめる、いろいろな香りに触れることができる、という意味での「育む」であり、第3次から一步進んだものになっていてよいと思う。

(F委員) キャッチフレーズなので、さまざまな捉え方があってよいと思う。「育む」についてはひらがなが良い。第3次の「息づく」から一步進んだ感じがしてよいと思う。

(事務局) 取組方針をあえてひらがなにしていると思うので、そことのバランスをどう取るか、だと思う。ちなみに生涯学習推進センターで現在作成している計画は漢字を使用している。

(委員長) 最終的にまとめた事務局としてはいかがか。

(事務局) 取組目標もひらがなであり、さらに「だれもが」もひらがなにしているので、「育む」もひらがなにすると続きすぎてしまうと思い漢字にした。ただ、ひらがなにしても柔らかい感じがしてよいと思う。

(委員長) 皆さんの意見から「、」は取った方がよさそう。「育む」の表記については意見が分かれているがいかがか。

(副委員長) 「、」を取りひらがな表記にすると、読みづらくなってしまふかもしれない。

(C委員) 計画への表記の仕方、ひらがなにした場合、「はぐくむ」と「だれもが」の間に隙間をあけてデザインしてはどうか。文章で使う際にはそのような表記はできないが、キャッチコピーとして何かに使う場合はそのような使い方もできる。

(委員長) ひらがなばかりになるという意見も出ているがどうか。

(E委員) 漢字にすると「育む」の育の字が教育やしつけのイメージを持ってしまう。ひらがな表記の方が抵抗がないと思う。

- ・到達目標については「文化芸術ではぐくむ だれもが楽しめるまち」という表記で答申を行うことにした。
- ・事務局より、引き続き、第5章から第6章について説明があった。また、計画内に文化振興推進委員会の会議の様子の写真を使用するため、会議中に写真を撮影することも承諾された。

(E委員) 第3次計画では4章は実施項目だったが、今回は重点取組項目を先に持ってきており、前向きな姿勢が見えてよいと思う。ただし、内容は具体的に書いてあった方がよいと思う。例えば小学校の校庭に置いてあるコンクリートで出ている椅子などを、芸術作品にすることで、子どもも文化芸術に触れることができ、作品を買い上げることによってアーティストの支援にもなる。これは取組方針に出ているもの全てを繋ぐことになる。具体的なことを書くことは難しいかもしれないが、このようなことを書けるとよい。第3次計画ではたちかわ創造舎のことに触れ、旧多摩川小にて中高生向けのワークショップなどを行っ

ていた。今年はグリーンスプリングスがオープンするのでそこと連携できるようになれば、旧多摩川小学校よりも交通の便が良い場所で若者向けのワークショップなどができるのではないか。そのようなことがすでに話し合いとして出ているのであれば、一言触れるとより具体的にイメージできるのではないか。重点取組項目とは5年間検討するものではなく、ある程度の成果を出すものなので、具体的にすることで振り返りもでき、つぎの10年にはより具体的に書けるようになる。

(委員長) 具体的に細かく書くことは難しいと思うが、「など」のような標記で具体的に書くことはできるかもしれない。

(B委員) 取組方針の「つなげる、ひろげる」のところでまちづくり協議会が主体となってネットワークづくりを進めるようになっており、これまでも主体となっているようだが、もう一步踏み込んで「つなげる」ということを積極的にやっていくためには、さらなる仕掛けが必要なのではないか。例えば多様な主体を繋げていけるような助成金の枠組みを作るなど。あえて今回新しく作った方針なので、まちづくり協議会だけに頼るのではなく、新たな仕掛けがあった方が新規の方針として意義がはっきりするのではないか。

(事務局) 今までまちづくり協議会は自主事業を主にやってきたが、これからはアーツカウンシル的な取り組みも行っていこうという話も出ている。また、実施項目「つなげる、ひろげる」の説明の中に「財団を中心に…」とあるが、今まで財団は事業を中心に行っているが、これからは「つなげる」の役割も必要となるという話も出てきている。そうしたことからまちづくり協議会と財団をあげさせてもらった。

(委員長) 目標となるように、少し具体的なことも入れ込むとよいかもしれない。また、アーツカウンシルという言葉がでていたが、その部分に関しては、より積極的に取り組むというニュアンスを出すのもよい。おそらく財団の今の活動自体がそのようなものであると思うが、よりその部分が強化されていくという事を言葉としてあらわしてもよいのでは。

(事務局) 財団はいろいろな事業展開の中で経験を積んでおり、悩みのある市民団体との連携を図っていく中で、アドバイス等もしている。現在まちづくり協議会で、市民団体はどの部分のサポートが必要なのかという調査をかけているので、具体的に文言を入れるとなると、その結果をみながら決めていく必要があるのではと思っている。

(委員長) そのあたりについては今後微調整が必要になってくる。また、第4章の重点取組事項の3の市史編さんの記述の中に「公開方法について検討を進めます」とあるが、ここをもっと踏み込んで、「公開します。」という言葉にしてもよいのではないか。

- (事務局) 担当者としてはそうあるべきだと思うが、現在の市史編さんの状況はそこまでのミッションを負う体制ができていないので難しい。
- (E委員) 例えば商工会議所や観光協会と手を組むなど、市史編さんの部局だけでなく、ほかと協力して進めることはできないのか。
- (事務局) 将来的にはそうなっていくと思うが、市史編さんは時限事業なので、今現在では残りの5年で刊行物を発行する、というのが最大のミッションである。講演会や広報誌の発行など啓発活動も行っているが、まずは刊行物を出すというので組織としては目一杯のところがある。出来上がった成果物を今後どのように活用していくかというのは、今後市の内部で検討していくことになると思うので、現状で文言として表記するのは難しい。
- (E委員) 今年はオリンピックイヤーで、国や都は文化的な行事を合わせて開催するようである。この計画にはオリンピックに合わせた文化的な行事などのことは何も触れられていないようだが、触れなくてよいものなのか。また、市として文化的なことを行う予定はあるのか。
- (事務局) オリンピック・パラリンピック関連のことについては追加するようにする。東京都が行っているオリ・パラ関連の助成金事業に応募しているので、その辺りも追加する。
- (委員長) 入れ込むなら第1章に入れることになるだろう。
- ・事務局より、引き続き、資料編について説明があった。
- (委員長) 全体を通して、また、今までの議論を通して皆様から一言ずついただきたい。
- (A委員) 立川は文化という世界で凄く変化をしてきている時期だと思う。いろいろ所で芽吹きを感じていて、それを市が媒介のような形で繋げていく、というのがどこかであるとよいと思う。他の市に比べすごく充実してきている感じがしており、この先5年間というのはそれが成果として出てくるすごく楽しみな時期である。個人的にもできる限り関与していきたいと思っている。
- (B委員) 取組方針の「つたえる、とどける」の実施項目の中に「事業者、民間イベント等との連携」とあるが、取組方針の「つなげる、ひろげる」の方に入れてもよいのでは、と思っている。現在、民間が文化の面で盛り上がってきており、行政も一緒になって盛り上げていくという姿勢をみせるために、「つなげる、ひろげる」に動かしてもよいのではないか。
- (事務局) 【施策の体系】で考えたときに「つたえる、とどける」に繋がっている実施項目に「文化芸術を活用し広く発信する取組」とあり、その中に「事業者・民間イベント等との連携」という項目があるのでそこに入れた。民間の資源なので、市が活用するというよりもうまく連携していくという意味でこちらに入れてあり、「つなげる、ひろげる」の方はそういった連携などの土台となる部分についての実施項目という分け方をした。

(C委員) 気になるところは2点ほどある。1点目は、「質の高い文化芸術」という記載があるが、質の高い文化芸術とはどういうものなのかという疑問がある。受け手によって基準はそれぞれなので、もう少し分かりやすい表現でもよいかもしれない。もう1点は、資料編をみると、立川には文化芸術に関する作品が沢山あるという事がわかるが、これが一体どこにあるのかというような広報の部分が足りないので、この部分を発信できれば、資料編を見た人が作品について調べたり、という様に興味を持ってもらえるのではないか。立川にはこれだけの作品があり、文化芸術に力を入れている街である、という事をもっと発信していくことで、今後の発展も見込めるのではないか。

(D委員) 「はぐくむ、ささえる」に関して、小・中・高・大学生の理解を深めるというのがすごく大事だと思っている。特に大学生が重要であり、この委員会に大学の教授に参加していただいているというのはとても恵まれていることだと思う。このような状況なので市と大学生がもっと連携ができていてもいいのではないかと思っている。大学生は高校生をけん引し、高校生はその下を…とつながっていくと思うので、大学生が立川でやりたいことを支援していく、という事がとても大事なことだと思う。大学生は情報発信も一番早くできるので、計画に書いてある情報発信のきっかけづくりにもなる。重点項目には近隣の大学や小中高と連携すると明記してあるが、「はぐくむ、ささえる」の実施項目ではその辺りが触れられていないので、具体的な施策などを明記してもよいのではないか。具体的な施策の例として自分の経験をあげれば、学生時代芸術学部にも所属しており映画を撮っていたが、金銭的にたくさんの映画は撮れなかった。もし、大学がある練馬区をロケ地とすることで区から支援してもらえる、のような仕組みがあったら、気軽に映画を撮ることができるという環境づくりにもなるし、学生たちが地域と馴染んでいくというきっかけ作りにもなったのではと思う。学生は大学がある場所に行くだけで、その地域とのかかわりはあまりない。地域が歩み寄り、支援することが大事だと思う。

(E委員) 立川は市民オペラやいったい音楽祭があり、さらに国立音楽大学と連携してロビーコンサート等もたくさん行っている。音楽が中心となったいろいろなものがあり、個人的にとっても住みやすいと思っている。今後もこういったものに関して発展して行って欲しい。立川を題材とした立川文学賞や立川の歴史と深く結びついた市史などと絡んだような創作オペラなどができれば面白いと思う。

(F委員) 民間との連携と出ているが、民間は利益を重視しているところもあり、施設を市民に貸すというよりも市民に来てもらう、という考えでいる。そのところを市や財団がどのようにアタックし、連携していくか、という事をよく考えていく必要がある。

(事務局) グリーンスプリングスに関しては、立飛も行政もお互い賑わいづくりの創出という点で合致している。財団でもサンサンロードで事業をやっているので、

グリーンスプリングスの中庭でのイベント協力の打診など、いろいろな形で接触がある。お互い求めているものがあるので、それがうまく合うような形でやり取りできればと思っている。

(F 委員) 上手く交渉していくことが必要である。

別件で、昨今小学校などで吹奏楽や絵画教室など創造性のある授業がどんどん削られてきている。教育委員会ではそういったことは学校ではなく、民間等で行っていくという方針の様である。そうなった場合、民間での受け皿が必要になってくるので、そういったこともこのような委員会で検討していく必要がある。

(事務局) この委員会に参加しているのは、文化財関係の主管課であるからだと認識していたが、前回の会議から話を聞いていて、生涯学習の部分でも連携ができ、広がりを持つことができるのではないかという印象を持った。

(副委員長) 前回の会議の際、自分で思っていた「文化」とこの会議での「文化」の意味が違うのがよく分かったが、自分の中で違和感は少し残っている。全体をみた時の印象として、文化芸術というのは生活の外側にあるものだという距離感を感じている。立川の歴史を育んできた人達や住んでいる人達など、そういったものがみえてこない。文化というのは暮らしの中から自然と発生するもので、その先に芸術が生まれてきているので、文化を支える一番中心となっているものが感じられないのでちょっと寂しい感じがしている。また、文化財の一覧が出ているが、目に見える、手に触れるもの等の美術がメインに来ている、伝統芸能のようなものの上にオペラなどが存在していると思うので、もっと「育まれてきたもの」もあるのではと思っている。

(委員長) 長い歴史の中で生活から生まれてきたハイアートだけが注目され、本来アートが生まれてきた基盤となっているものとの繋がりがわかりづらくなっている。「文化は生活の中にある」というのをどのようにみていくかは、とても重要なことになってくる。この委員会では文化の中の特に芸術の部分に注目して議論をしてきていたが、生活そのものとの切り離しはあり得ないので、次の課題としていければと思う。

(F 委員) 西洋では各都市にオペラがあって生活に密着し、市民とオペラ座が一体となっている。日本も江戸時代までは同じような文化があったが、明治以降に無くなってしまい、文化の根付く土壌が無くなってしまった。これからはそのような市民意識も育てていかなくてはいけない。

(委員長) 今回出た意見をまとめて第4次文化振興計画を進めていただきたい。

3. 立川市第4次文化振興計画についての答申

- ・委員長により資料「答申にあたって」の発表があった。また、答申を市長代理である産業文化スポーツ部長に提出した。

4. その他

- ・事務局より、今後の流れについて説明があった。

○1/17（金）文化振興推進会議幹事会開催済み、1/23（木）教育委員会定例会で意見をもらう予定

○上記の会議の意見をまとめたものは委員にメールにて送付する。

○2/3（月）経営会議、2/6（木）政策会議・文化行政推進会議を経て、3月議会に素案を提出、4月にパブリックコメントを実施する。